

## 教科等研究会（小学校国語部会）

## 令和2年度 研究活動のまとめ

## 1 研究テーマ

「分かる・できる」「楽しい」国語科の授業づくり  
～付きたい力と手立てを明らかにして～

## 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所			
7/6	34名	益城中央小	11/9	29名	益城中央小	1/22		益城中央小			
						中止					

## 3 研究の概要

## (1) 研究の内容

## ① 今年度の方針

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、小学校国語部会では、研究授業を行わず、講師をお招きしての研修会を通して、部会の先生方に国語科の授業づくりについての見識を深めていただくという方針を立てた。そのため、例年実施している研究授業を通して研究テーマに迫るといった研究の方法をとることができないため、本年度の研究テーマについては、変更せず昨年度の研究テーマの通りとした。

## ② 研修会のねらい

講師招聘の研修会のねらいを、以下のように立てた。

- 新学習指導要領実施における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方について学ぶ。
- 国語科の授業づくりで大事にしたい不易の内容について学ぶ。
- 明日の授業に即役に立つ内容（実践可能な具体的な内容）を学ぶ。

新学習指導要領実施における授業改善の在り方等の最新の知見を学ぶことのみならず、国語科の授業において、時代を超えて大事にしたい（大事にされてきた）不易の内容についても学ぶことができる骨太の研修会にすることをねらった。ただ、国語部会の先生方すべてが、必ずしも国語が専門というわけではない。したがって、講師の先生方には、理論的な部分のみならず明日の授業にも即役に立つ具体的な実践例も紹介していただくようお願いをした。

## (2) 成果と課題

## ① 成果

研修会後のアンケートに、次のような内容等が多く綴られていた。

- 「主体的・対話的で深い学び」をいかに授業のなかで実践していくか校内研の中でも常に課題になっていたが、具体的な手立てレベルで話を聞くことができ大変有意義な研修だった。
- 「主体的・対話的で深い学び」のために、タイムリーで有効な内容であった。授業レベルで何をどう指導していけばいいのかが具体的にわかった。

先生方のアンケート内容を総括すると研修のねらいはある程度達成することができたと考える。

## ② 課題

今年度は教科等研究会の生命線である「研究授業の積み重ねを通して、研究テーマに迫る」という本来の方法ではなく講師招聘の研修会という形で実施した。しかし、研究授業を通して、また児童の姿を通して学び合うという教科等本来の実践研究の方法が最適であることを再認識した。

#### 4 実践事例

##### (1) 第1回教科等研究会の概要

研修『読むこと』領域 授業づくりの極意（文学的文章教材編）  
講師：濱本 竜一郎 上益城教育事務所 指導課長

##### ○研修の流れ

- ① 「読むこと」領域における授業改訂の要旨（学習指導要領改訂の趣旨より）坂崎理事長
- ② 講話（模擬授業形式で） 濱本指導課長

##### ○研修内容の概要

まず、①では、坂崎理事長が参加者の意欲喚起と自身の振り返りをねらって問い（「文学的文章教材」の授業づくりで大事にしていることを3つ書く）を出し、先生方一人一人に問いに対する自分の考えを持っていただいた。そして、一人一人の考えをグループで共有し合い、ホワイトボードにまとめてグループごとに発表しそれを全体で共有化するという流れをとった。その後理事長よりプレゼン資料（下記参照）を基に「読むこと」領域における授業改善の要旨を説明した。

##### (2) 学習内容の改善・充実

###### ③学習過程の明確化、「考えの形成」の重視

中央教育審議会答において、**ただ活動するだけの学習**にならないよう、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのを示すため、平成20年告示の学習指導要領に示されている学習過程を改めて整理している。この整理を踏まえ、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。

##### (2) 学習内容の改善・充実

###### ②情報の扱い方に関する指導の改善・充実

～中央教育審議会答申において、「**教科書の文章を読み解けていない**との調査結果もあるところであり、**文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしているようにすることは喫緊の課題**である。」と指摘されているところである。

##### 【授業改善の要旨（学習指導要領改訂の趣旨より）】

次に、②では、①のグループ発表で出された考えについて濱本指導課長がコメントされ、引き続き「読むこと」領域における具体的事例（「対決！ディズニーVSグリム」を紹介していただいた。

【読むこと】  
**対決！ディズニー VS グリム**（3年生の実践より）  
同じモチーフの話を比べて読み、それぞれのよさを見つけて、文章に書いたり話したりすることができる。また、本の世界を広げることできる。  
上益城教育事務所 指導課長 濱本 竜一郎

1 実践のあらまし  
【ディズニー化されたグリムの昔話を読む】  
幼い頃にディズニーのお話が大好きだったという人がたくさんいる。あのかわいらしいアニメーションの世界はとても魅力的だが、実は古典のパロディである。ディズニーを読んだために、もとの作品に触れずに終わってしまうのはなんと残念である。原点とディズニーを比べてそれぞれのよさを見つけてみる。

2 「対決！ディズニーvsグリム」の実践の具体（4時間取り扱い）  
まずは、グリムの昔話からディズニーの作品として取り上げられたものを見てみる。

【第1時】  
(1) 各自が知っている「白雪姫」のお話を発表する。  
(2) 各自の知っている「白雪姫」が微妙に異なることに気づく。  
(3) 「白雪姫」の原作はグリムであることを知り、そのパロディの代表作であるディズニーと読み比べるという学習課題をもつ。  
(4) ディズニーの「白雪姫」の読み聞かせをする。 → **ポイント1** ディズニーを先に読むこと 教師が読み聞かせること  
(5) グリムの「白雪姫」の読み聞かせをする。  
(6) ディズニーとグリムの「白雪姫」の似ているところ・異なるところをまとめる。  
似ているところは、美しい白雪姫がお后に殺されてしまうが、王子様と出会うと息を吹き返し、二人が幸せに暮らすというあらすじである。異なるところの一例を、以下に示す。

ディズニーの「白雪姫」	グリムの「白雪姫」
・白雪姫を殺した証痕に、狩人に <b>心臓</b> をとって来させるお后	・白雪姫を殺した証痕に <b>肺と臓</b> を狩人にとり来させ、それを調理して <b>食べる</b> お后
・おばあさんに化けたお后に <b>毒リンゴ</b> を食べさせられて殺される白雪姫	・おばあさんに化けたお后に、 <b>絞め殺され</b> そうになり、 <b>毒の壺</b> で殺されそうになり、ついに <b>毒リンゴ</b> で殺される白雪姫
・王子様と白雪姫は <b>幸せに暮らす結末</b>	・王子様と白雪姫は、 <b>結婚式</b> にお后を招待し、 <b>真っ赤に焼けた鉄の靴</b> をお后に履かせ、 <b>踊り死</b> にさせる結末

【第2・3時】  
(1) ディズニーとグリムの「白雪姫」の似ているところ・異なるところを発表する。  
(2) 「白雪姫」以外の、ディズニーの作品とその原作を知る。

(ディズニー作品とその原作)	
・ピノキオ（コッロディ）	・ピーターパン（バリ）
・パンピ（不詳）	・アラジン（ディクソン）
・リトルマーメイド（アンデルセン）	・ジャングルブック（キップリング）
・くまのプーさん（ミルン）	・ふしぎの国のアリス（キャロル）
・いなかのねずみ（イソップ）	・ちいさいおうち（バートン）
・三びきのこぶた（不詳）	

(3) 図書室で本を探し、読み比べる。 → **ポイント2** 授業の中で読む時間を確保すること 司書の先生との連携も重要

【第4時】  
(1) 「まだディズニーも原作も読んでいない3年生に紹介するならどっち？」というテーマで目的と相手意識を明確にして紹介文を書く。  
(2) 「まだディズニーも原作も読んでいない弟や妹を紹介するならどっち？」というテーマで目的と相手意識を明確にして紹介文を書く。  
(3) 各自の紹介文を交流し、これから読んでみたい本を具体的にもつ。

小さい子に勧めるとしたら、わたしはディズニーを勧めます。なぜならおもしろく残酷な場面もなく、絵も優しく描いてあるからです。ディズニーは家が貧しく遊ぶことができなかったそうです。だから大人になったら、子どもたちに夢のある楽しい物語を書きたかったそうです。そういうディズニーの本を小さい子に読んでほしいと思います。

それに対して原作のグリムは残酷なところもあります。また、悪いことは悪い、よいことはよいと書いてあります。

例えば、ディズニーの白雪姫の最後は、お后は岩もろともに真っ逆さまに落ちて死にました。一方、グリムの白雪姫の最後は、鉄の靴を熱く焼いてそれをお后に履かせて死ぬまで離らせるといったものでした。

このように、ディズニーとグリムの違いがはっきりとしています。3年生以上になると、グリムの方が詳しく書いてあり楽しめると思います。

参考文献  
『図画教室宣言』 田近 洵一 国土社 1995年

(2) 第2回教科等研究会の研修概要

研修「新学習指導要領における対話・話し合い指導の重視」  
 講師：北川 雅浩 熊本大学大学院教育学研究科 准教授

○研修の流れ

- ① 新学習指導要領が目指す学びと対話・話し合いについて（講義形式）
- ② 対話・話し合いを高める手立て（ワークショップ形式）

○研修内容の概要

まず「これからの学びと対話・話し合いについて」のお話があった。学習指導要領改訂の背景やこれからの社会で求められる資質・能力を踏まえて、目指す授業の姿について詳しく丁寧な説明があった。（以下のプレゼン資料等を基に）



### 新学習指導要領がめざす授業の姿

**主体的・対話的で深い学び  
(アクティブ・ラーニング)**

### 子供たちの学び合いだけで授業は成立するのか？

- 効率よく分らせるためには教師主導、じっくり考えさせる場面では子供たちによる学び合いといった使い分けが必要。
- 子供たちの中の考えのズレの指摘、学びの焦点化は、教師が積極的にはたらきかける必要がある。子供たちが気付くまで手をこまねていてはいけない。
- 支援を減らしていく（足場をはずす）という意識も重要。

【講話の様子】

【プレゼン資料（めざす授業の姿）と（授業実践の留意点）】

次に、学びに生かされる「対話・話し合いを高める手立て」について、ワークショップ形式で実際に体験しながら、参加の先生方にそのポイントを実感していただいた。まず、対話・話し合いが充実するための要件や学びに生かされる対話・話し合いの3つのステップを示していただき、その後具体的な実践事例を体験していった。

【対話・話し合いの要件と3つのステップ】

#### 対話・話し合いが充実するための要件

#### 学びに生かされる 対話・話し合いのステップアップ

- レベル3 整理しながら深めていく
- レベル2 「似ている考え、別の考え」を伝え合う
- レベル1 「話をつなぐ」を意識させる

【「話をつなぐ」ステップ】

#### 相手の発言を受けて話をつなぐ

この間、お父さんと動物園に行って、はじめてパンダを見たんだ。

【受け止め】へえ、そうなんだ。

【共感】いいねえ。

【くり返し】パンダを見たんだね。

うん、そしたらね・・・

**第1段階** 受け止める、共感を示す、言葉をくり返す

#### 相手の発言を受けて話をつなぐ

この間、お父さんと動物園に行って、はじめてパンダを見たんだ。

【くり返し】パンダを見たんだね。

【質問】パンダは何をしていた？

【感想】いいな。ほくはパンダを生で見たことが無いんだ。

【確かめ】生ではじめて見たってこと？

**第2段階** 質問する、感想や意見を言う、確かめる連想したことを言う

**第1段階** 受け止める、共感を示す、言葉をくり返す

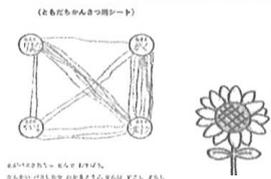
○ 「レベル1 話をつなぐ」の実践例（アクティビティ「フラワーパス」）

話をつなぐ意識を高めるアクティビティ③

## フラワーパス



花を使うことで、話のつながりを可視化することができる  
(つながりの意識化)

<p>フラワーパスのルール①</p> <p><b>はなすときは、花をもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●つぎにはなす人に、花をわたす</li> <li>●はなしたいときは、花をもらおう</li> </ul>	<p>フラワーパスのルール③</p> <p><b>とくべつルール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●しつもんだけなら、花をもたなくてもよい</li> <li>●花をもっていなくても「ああ」とか「たしかに！」とか言ってもよい</li> </ul>
<p>フラワーパスのルール②</p> <p><b>パディグループに かんさつしてもらおう</b></p>	<p>(おもしろいやりとりシート)</p> 



【「フラワーパス」を実際に体験している様子】

### 共通するポイント

- ・パスやつながりを可視化する。
- ・最初は受け取る楽しさからスタートする。
- ・よりつながるにはどうしたらよいかを発見し、共有・ストックする。
- ・この活動を上達させることを目的とするのではなく、意識を高めるために用いている。

○ 「レベル2『似ている考え、別の考えを』を伝え合う・レベル3 整理しながら深めていく」

**身に付けさせるためのポイント**

- ・繰り返し様々な場面で意識させる。
- ・まずはペア交流から。相手は自分で決められるようにし、時間があれば別の相手とも交流させていく。
- ・最初のうちはできたかを確認する場面を取って、意識付けをする。
- ・対話の言葉は、繰り返す中で、子供たちの言葉を生かして増やしていく（無自覚な言葉を教師が価値づける）。
- ・似ている意見同士は違いを、違いが大きい意見同士は共通点を発見させる。(=中学年の話し合うことの指導事項)

【レベル2のポイント】



【活動の振り返りを行っている様子】

**途中で整理してみる（立ち止まる）**

分からなくなってきたから、一度整理してみようよ。



- ・10分以上の話し合いであれば、1度か2度、途中で整理すると建設的な話し合いになりやすい。
- ・子供たちは進める方に意識が向きやすく、立ち止まることへの意識は薄い。

【レベル3のポイント】

○ まとめ（学びに生かされる対話・話し合いを高めるために大事にしたいこと）

学びに生かされる

### 対話・話し合いのステップアップ

- レベル3** 整理しながら深めていく  
→意識を高め、どんな「よさ」があるかを考えさせる。
- レベル2** 「似ている考え、別の考え」を伝え合う  
→日常的に繰り返す。積み上げてレベルアップさせていく。
- レベル1** 「話をつなぐ」を意識させる  
→スキルを細かくして、アクティビティを通して練習させる。

学びに生かされる対話・話し合いを高めるために大事にしたいこと

- どのようなやりとりができればよいか、教師が具体的にイメージしておく。
- 無自覚な（でも効果的な）発言を教師が価値付け、広めることを心掛ける。
- 子供たちが自分たちの対話・話し合いについて話し合う場面を設け、意識を高める（そのために、話し合いを見合う活動は効果的）。
- できれば定期的に録音して聞く。

